

平成30年度病虫害発生予察予報第12号（3月）

平成31年3月8日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、平年並(西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(中央、中西) <u>多(県下全域)</u> <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> 、やや少(西) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(中央、西)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、やや少(東、西) <u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> やや少(県下全域) <u>多(中央)</u> 、平年並(東)、やや少(西)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(中央、中西)</u> 、 <u>やや多(東)</u> <u>多(中西)</u> 、やや少(東、中央) <u>やや多(中央、中西)</u> 、やや少(東) <u>多(東、中西)</u> 、平年並(中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> やや少(中央) <u>多(中央)</u> やや少(中央) 少(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 2月28日発表）

3月2日から4月1日までの天候見通し

<特に注意を要する事項>

期間の前半は、気温がかなり高い見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は多い確率50%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	20	70	
		降水量	20		30	50
		日照時間	40		40	20

<気温経過の各階級の確率（%）>

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	10	80	
2週目		20		30	50
3～4週目		20		30	50

<予報の対象期間>

1ヶ月：3月2日（土）～4月1日（月）

1週目：3月2日（土）～3月8日（金）

2週目：3月9日（土）～3月15日（金）

3～4週目：3月16日（土）～3月29日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、平年並（西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中西部で多く、中央部で平年並、西部ではやや少なかった。発病程度は中央部、中西部で高く、西部では平年並であった。

(2)3月の気温は高め、降水量も多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気に

より、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（中央部、中西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県西部では発生面積、程度とも平年並であったが、その他の地域は平年よりも少なかった。

(2)3月の気温は高め、降水量も多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（県下全域）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部と西部で多く、中西部でやや多かった。発生程度は西部で高く、中西部でやや高く、中央部では低かった。

(2)3月の気温は高めと予想されているため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部）、やや少（西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部で多かったが、中央部は平年並、西部はすくなくかった。発生程度は中央部、中西部で高かったが、西部は低かった。

(2)巡回調査では県下全域で先月以降も新たな発生が見られている。また、媒介であるミナミキイロアザミウマの発生面積は中西部で平年よりもやや多く、その他の地域で平年並であった。

(2)3月の気温は高めと予想されているため、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになり、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：多（中西部）、やや多（中央部、西部）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中西部でやや多く、その他の地域は平年並であった。発生程度は中西部で高く、西部でやや高、中央部では低かった。

(2) 3月の気温は高めと予想されているため発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）、やや少（東部、西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積がやや多かったが、東部、西部は少なく、発病程度はいずれの地域も平年よりも低かった。

(2) 3月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部、中央部）、やや多（西部）

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で多く、東部でやや多、西部では平年並であった。また、発病程度は中央部と西部で高く、東部で平年並であった。

(2) 3月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

(1) 巡回調査では西部のみ発生が見られたが、発生面積は少なく、発生程度も低かった。

(2) 3月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（中央部）、平年並（東部）、やや少（西部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多く、東部でやや少なく、西部は少なかった。発生程度は西部で高く、東部で平年並、中央部ではやや低かった。
- (2) 3月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや多（県下全域）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、発生面積はいずれの地域も平年並、発病程度はやや低～低めであった。
- (2) 3月の気温は高め、降水量は平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（中央部、中西部）、やや多（東部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、中西部で多く、東部は平年並であった。発病程度は東部で高く、中央部でやや高く、中西部では低かった。
- (2) 3月の気温は高め、降水量は平年並～多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 抛

- (1) 巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。県中西部では、発生面積が多く、発病程度も高かったが、中央部では発生面積は少なく、発病程度も低かった。
- (2) 3月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部、中西部）、やや少（東部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。県中央部では発生面積が平年並、発生程度は高かったが、東部、中西部は発生面積、程度とも平年以下であった。
- (2) 3月の気温は高めと予想されているため発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：多（東部、中西部）、平年並（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で見られた。発生面積は県東部と中西部で平年よりもやや多く、中央部でやや少なかった。発生程度はいずれの地域ともやや低～低かった。
- (2) 3月の気温は高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では発生面積は多く、発病程度も高かった。
- (2) 3月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：やや少（中央部）

根 拠

- (1) 巡回調査では発生面積は少なく、発病程度も低かった。
- (2) 3月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、発病が増加すると考え

られる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では発生面積は平年よりもやや多かったが、下葉中心の発生であり、発病程度は低かった。
- (2)3月の気温は高め、降水量は多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では、先月以降、新たな発生は認められなかった。また、媒介虫であるタバココナジラミの発生も認められなかった。
- (2)3月の気温は高めと予想されており、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖に好適となるものの、施設内での発生が見られてないことから、この状態が続くと考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1)巡回調査では発生を認めなかった。
- (2)3月の気温は高めと予想されており、本虫の増殖に好適となるものの、施設内での発生を認めてないことや、ほほんどの施設で防虫ネットが被覆されており、野外からの侵入も少ないと見込まれることから、現在の状況が続くものと考えられる。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.